学校番号	T3017

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	数学Ⅰ　Essence　（東京書籍）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年生で学習した『集合と論証』以外の数学Ⅰの内容を学習します。
数学Ⅰは，数学を学んでいく上で，基礎的な知識・技能は必須なので，日々の授業の内容を確実に理解し定着できるよう，授業プリントや教科書の基本問題を中心に反復練習してください。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
数と式，二次関数，三角比及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
【思考力、表現力、判断力等】
数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力関数関係に着目し，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式，図形と計量及び２次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	数と式	数と式	a:二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深めている。 b:問題を解決する際に，既に学習した計算の方法と関連付けて，式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることでできる。 c:数と式について学んだことのよさを認識し活用したり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ 定期ﾃｽﾄ	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ 定期ﾃｽﾄ	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ
		実数	a:数を実数まで拡張する意義を理解し，簡単な無理数の四則演算をすることができる。 b: 問題を解決する際に，既に学習した計算の方法と関連付けて，式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることでできる。 c: 数と式について学んだことのよさを認識し活用したり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ 定期ﾃｽﾄ	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ 定期ﾃｽﾄ	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ
		1次方程式 1 次不等式 連立方程式 連立不等式 方程式･不等式とグラフの関係	a:不等式の解の意味や不等式の性質について理解し，一次不等式の解を求めることができる。 b:不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察することができる。 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，一次不等式を問題解決に活用することができる。 c:数と式を活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価･改善したりしようとしている。	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ 定期ﾃｽﾄ	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ 定期ﾃｽﾄ	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ

後期	2次方程式と2次不等式	2 次方程式 2次不等式 方程式･不等式とグラフの関係	a:因数分解を用いて,2 次方程式を解くことができる。 解の公式を用いて，2 次方程式を解くことができる。 b:2 次方程式は,因数分解による解法が難しい場合に,解の公式を利用すれば,必ず解を求められることを理解している。 c:2 次方程式がどんな場合でも解けるように,解の公式を得て,それを積極的に利用しようとする。	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ 定期ﾃｽﾄ	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ 定期ﾃｽﾄ	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ
	三角比	鋭角･鈍角の三角比 正弦定理 余弦定理 三角形の面積	a:鋭角の三角形の意味と相互関係について理解している。 b:図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに，定理や公式として導くことができる。 c: 三角比を活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価･改善したりしようとしている。 a:正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し，三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 三角比を鈍角まで拡張する意義と，鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 b:図形の構成要素間の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え,問題を解決したり,解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 c: 三角比について学んだことのよさを認識し，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ 定期ﾃｽﾄ	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ 定期ﾃｽﾄ	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度